

街道を歩く



本陣通り

本陣桜井家

中山道が古市場、南町を通っていたころは旧道の桜井の地にあり、街道が北側に移ってからは現在地間口21間、奥行き28間、建坪174坪。問屋も兼ね西行きの荷を担当(東行き荷は野口家)度重なる火災で焼失、再建繰り返す。酒の醸造をしていたとも言われ、芭蕉が鶴沼3度目の訪れで坂井家でもてなしを受けた酒はこの菊花酒とか。



芭蕉句碑



二宮神社

脇本陣 問屋野口家 (天保以後脇本陣かねる)

敦賀城主大谷刑部吉隆の三男大谷久右衛門吉矩と伝えられる。関ヶ原の戦いに敗れ、多芸郡野口に(大垣)蟄居、許され野口と改姓し、鶴沼で問屋をはじめ。

脇本陣 坂井家 (本陣西隣)

織田信長の重臣坂井右近将監政尚の末裔といわれている、その後大谷久右衛門吉矩に仕え大谷氏とともに鶴沼にきて脇本陣を務める。芭蕉は鶴沼を3度訪れ3度とも坂井家に泊まる。3度目の訪れで菊花酒で饗応をうけ詠む。
"ふぐ汁も喰へば喰せよ菊の酒"
この句を硅化木に釘で彫りつけている。句碑はいま犬山市役所南の薬師寺境内にある。

二宮神社

6世紀ころの古墳の上に建っている。境内には鶴沼産の石で作った燈籠が数多くある。鶴沼産の石は加工しやすい赤穂浪士の墓もこの石で作られているという。

芭蕉句碑

芭蕉は3度鶴沼を訪れている 最初は貞享2年(1685)3月"野ざらし紀行"次に貞享5年7月脇本陣坂井家で"汲溜の水泡立つや 蟬の声"と詠む その1ヶ月後「更科紀行」で訪れている

尾張藩榜示石

公園の階段上あたり 各務野の所属をめぐって各務村と鶴沼村に争いが起こったので尾張藩が境界の石標を建てた元は東消防署西と各務原駅あたりにあった

二宮神社

馬頭観音 本陣桜井家 鶴沼宿 赤坂神社 脇本陣坂井家 芭蕉句碑 野口家 高札場跡

衣裳塚古墳

鶴沼西町 大安寺川

鶴沼宿

鶴沼東町



中山道：馬籠宿、美濃 16 宿 - (12)

中山道：坂祝(勝山) - 鶴沼宿



街道筋より猿啄城



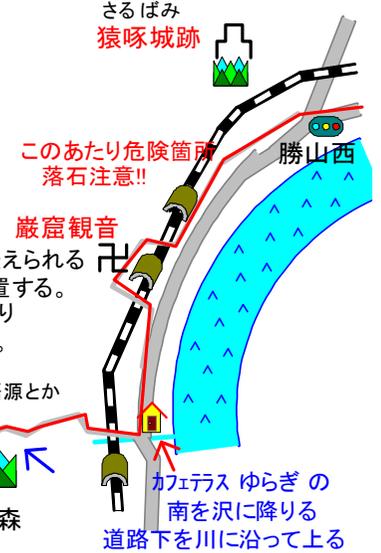
巖窟観音



険しい道

猿啄城 (猿飛城、根尾山城ともいわれた)

記録によると応永の頃(1407)西村豊前守善政が城主、享録3年(1530)より田原左衛門の居城となる。天文16年(1547)同族の多治見修理が謀反を起こし城を奪う。以後18年間在城、永録8年(1565)織田信長は丹羽長秀に中美濃を攻めさせ河尻鎮吉によって落城。信長は幸先よしとし地名を勝山と改める。河尻が城主となる。河尻が岩村に移る天正3年(1575)に廃城となる。



推古天皇の時代に勧請と伝えられる巖窟の中に石造の観音安置する。享保15年(1730)大工事によりここ難所の通過可能となる。

一里塚

「疎ましい」が語源とか

うとう峠

うぬまの森

合戸池

うぬまの森

カテラス ゆらぎの南を沢に降りる

道路下を川に沿って上る

鶴沼宿 (太田宿より2里)

中山道は制定された頃は伏見から土田宿を通り犬山の内田の渡しから鶴沼に通じていた。宿は現在の古市場、小伊木、南町にあったという。その後、大田宿が設置され勝山の岩屋観音坂(木曾川の崖縁)が開通したのに伴い東町、西町に宿が設置されたようである。濃陽旬行記に寄ると慶安4年(1651)ころとされている 東町、西町、羽場町の7町38間余りが街並である。



東見付の観音碑 (道しるべ地蔵尊)

平成 21 年 9 月 25 日

あきやま